

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171200116		
法人名	有限会社 ケアソリューション		
事業所名	グループホーム すずらんの家		
所在地	恵庭市黄金北3丁目12-6		
自己評価作成日	令和5年2月17日	評価結果市町村受理日	令和5年5月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。
 基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&ligvosvoCd=0171200116-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal		
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501		
訪問調査日	令和5年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事が美味しいと皆さんが言われます。家族の方にも写真とかでお知らせしていると、美味しそうな食事と言われることが多いです。イベントなどでは、工夫しています。職場環境においても労働時間など働きやすい環境になっていると思います

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

恵庭市のシンボルマークである「すずらん」を事業所名とし、平成15年に開設しています。最寄りの駅からは徒歩圏内にあり、バス停からも近く周辺には医療機関、中学校、大学、公園、食事処等があり、生活環境に優れています。基本理念は「やさしさ、気配り、よりそい」をキーワードとし、日々実践に努めています。外出は感染症予防対策を講じ、周辺の散歩や買い物、道の駅で昼食や恵庭溪谷の滝を見物しています。季節の行事を大事にし、飾り付けや食事等で楽しめる企画を立てています。日常的には身体を動かしたり、脳トレやカラオケで活性化を図り、誕生日には要望の生寿司やケーキ等でお祝いをし、時には稲荷寿司の酢飯詰めやお好み焼きで利用者が力を発揮するなど、五感刺激に繋がっています。地域とは、回覧板で「すずらん便り」を回してもらい、相互の情報が伝えられています。家族は利用者とはガラス越しの面会ができています。月1回の事業所便りでは日常の様子が伝えられ安心感につながっています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果		項目		取組の成果	
		↓該当するものに○印				↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/>	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングの常に目に入る場所に掲示している すぐ確認できるように。基本理念に沿った援助ができるように取りくんでいる	理念は、地域との関係性を踏まえ「やさしさ、気配り、よりそい」を核とし事業所内に掲げ、運営やケアの指針としています。毎朝、唱和することで職員の意識付けを図り、実践に繋がっています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在コロナ禍の為交流は難しい 去年は数名の入居者様が町内の夏祭りに参加してる	地域交流は控えていますが、近所の方々との挨拶、周辺の清掃、廃品回収の協力、回覧板に町内会向けの事業所便りを一緒に回してもらい、相互の情報が伝わっています。年1回大学からの実習生により、利用者は周辺の散歩で外気に触れています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の回覧板にすずらん便りをいれてもらいホームの様子を知ってもらっている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの為現在は行えていない	感染症予防対策として会議は書面としています。議事録で利用者や職員の状況、活動内容、事故やヒヤリハット等を推進委員に報告し、加えて意見書を同封して運営の質向上を図っています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍のため行政とメールや電話で連絡を取っている	実地指導や事故報告、認定調査等の窓口担当者とは管理者が対応しています。連絡や情報交換等はメールや電話でやり取りを行い、スムーズな運営に生かしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内研修を行い身体拘束を行わない取り組みを行っている	身体拘束や虐待を行わないケアを基本としています。職員は、利用者への寄り添いを謳った理念の実践に努めています。適正化委員会や研修会を定期的で開催し、職員全員の理解や共通認識に繋がっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内研修を行い虐待防止について取り組みを行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内研修を通して学ぶ機会を得て支援に繋げている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始前にご自宅に訪問したり、ご家族様にホームに来ていただいたりし、必要書類について十分に説明を行っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱設置している。面会時、意見や要望を聞くようにしている	家族には、毎月の事業所便りで日々の暮らしを写真とコメントで報告し、さらに個別に管理者からのメッセージが添えられています。家族の意見は来訪時に聴きだし、得られた意見には適切な対応に努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議の場で提案できる機会を設けている	代表者や管理者はシフトに入っており、利用者のみならず職員の動向にも配慮しています。職員は業務上や会議等で積極的に意見を伝えています。希望休など、個別の要望にもできる限り応じています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員を増やし、勤務時間内に仕事が終わるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの為現在は行えていない研修もスタッフ各自研修課題に取り組む会議で発表している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	コロナ禍のため行政とメールや電話で連絡を取っている為同業者と交流はできていない		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前資料で少しでも把握して入居後は要望、訴え視聴努力を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に頂いている情報や面会時で伺っている。関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時は様子観察の為一ヶ月プランで行い再度アセスメントを行いスタッフ間で話し合いをし必要な対応を検討する		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	相手からも話して貰うようこちらからもコミュニケーションを取りよい関係作りに努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時は出来る限りガラス越しだが顔をみて話をさせていただく。スタッフも間に入り関係を築くようにしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問専門の理美容をりようしている	コロナ禍にあってもガラス越しで家族や友人との面会ができています。職員はもとより、来訪の医療関係者や理美容者とは馴染みの関係になっています。利用者の要望により、近くのコンビニへ買い物に出かけています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を把握しお互いに話しがしやすい様席の工夫を行っている		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も気楽に相談していただけるよう関係作りを心がけている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話から本人の思いや意向を聞いてスタッフで話し合いをする。本人の思いに沿った生活の実現に努めている。自己表現が困難な方の心情の把握に努め本人の希望、意向に添えるように検討している	利用者の思いは会話を中心に把握していますが、言葉での意思疎通が困難な場合は、利用者の表情や生活歴などから推し量っています。状況によってはケアプランの支援目標として意向が叶えられるようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時は必ず本人の情報を確認している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の出来ること能力をレクリエーションやお手伝いを通して現状把握している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ間での情報共有やカンファレンス申し送り等で入居者様の状態を把握し課題を検討している	更新や状態変化時のケアプラン作成時は、毎日のモニタリングや3か月ごとのアセスメント、利用者や家族の意向、介護記録を参考に全職員で協議しています。介護記録簿には利用者の動作や言葉が記載されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りの活用、ミーティング、ケアカンファレンスなどにより情報を共有		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望や意向をその都度確認し状況に応じた支援を行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナのため現在はできていない		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療、主治医に定期的に診療を受け近況を報告し適切な医療が受けられるように支援している	殆どの利用者は協力医による訪問診療を受けています。入居以前に通っていた医療機関への受診や他科受診は職員が対応し、健康状態は家族と共有しています。訪問看護師による健康チェックも行われています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康管理について介護職員と訪問看護の連携体制に努め必要な助言や指示をもらっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必ず付き添い情報提供を行い本人家族が安心して治療出来るように主治医などと話し合う時間をつくってもらっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期には家族と面談している ご本人や家族の希望の沿った終末期を過ごせるように支援している	重度化や終末期については入居時に指針で説明し、利用者や家族の意向を確認しています。主治医の所見により回復の見込みが望めない場合は、関係者と方針を共有し、利用者や家族の思いに添った支援になるよう努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は主治医や訪問看護師に連絡し指示を仰ぐ		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホームでの避難訓練を行っている いろいろな想定で訓練を実施している	防災業者の指導を得ながら、年2回、日中・夜間帯の地震を含む火災想定での避難訓練を実施し、その後に振り返りを行い、課題は次回の訓練で改善に努めています。地域の協力で段階的な避難場所を確保し、発電機も借り受けができる状況です。	地域との協力体制を整備し、災害時必需品も用意して非常時に備えています。避難場所である町内会館までの実践的訓練、入浴や排泄時などケア場面を想定しての対処法の取り組みにも期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内研修にて接遇や個人情報について学ぶ機会をつくっている。	業務優先ではなく利用者のペースを大事にする支援に努めています。日々の関わりや接遇研修で適切な支援への学びを深め、特に入浴や排泄時は羞恥心に配慮するなど実践に生かしています。個人記録類も正しく取り扱っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択枠を設けたり目で見て選んでいただくように自己決定出来るよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	本人の意向に沿ってその人のペースに合わせて体調にあわせ生活出来るよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日同じ物を着ないようきを付けたり、訪問理美容も利用し清潔感を保つよう配慮している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食後の食器洗いすぎ 野菜など皮をむいてもらったりしています	献立は、その日ある食材や差し入れの野菜等を使い、利用者の要望や好みを参考に作成し、利用者の協力を得て作っています。誕生日や行事食では出前や持ち帰り食品を利用したり、利用者による稲荷寿司の酢飯詰め、お好み焼きのほか、外出先での昼食等もあり食の楽しみに繋げています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分摂取料を都度チェックし摂れない場合は提供方法の工夫をする		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシや口腔ケアガーゼなどを用意その方にあつたケアで口腔ケアを行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し場合によっては声かけしトイレ誘導する。	職員の声かけや誘導でトイレでの排泄に努めています。夜間のみポータルトイレの使用やベッド上での支援もあり、失敗や不快感の軽減につながる取り組みが行われています。衛生用品の使用時は、関係者と話し合っ決定しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食後トイレ、ポータブルトイレ、誘導しています 水分もごぼう茶、ヨーグルト、オリゴ糖も提供しています		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	曜日、時間帯を決めて入浴している。入浴剤をいれたり、湯加減を調整しています	入浴は、午前中に週2回を基本としています。湯船にゆったり浸かったり、体調が悪いときのみ足湯にシャワー浴などいろいろですが、入浴中は身体状況の確認や昔話を聞いています。入浴剤や菖蒲湯、柚子湯で、気分を変えるなど、楽しみある時間帯になるよう努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前中は入浴や活動を行って昼食後に休息します。できるだけ、メリハリをつけて、夜眠れるようにしています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフが薬情報を確認する。入居者様それぞれの服薬支援を行っています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝い等で役割を持ち針のある生活を送り前向きな気持ちで過ごしていただきレクリエーション行事で楽しみや気分展開になるよう支援しています		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で2回の外出しかできていない。ホームの周りをお散歩にはいけています	感染症予防対策の上、周辺の散歩や買い物、サンルームでの日光浴のほか、道の駅で昼食、恵庭溪谷で滝を眺めるなど、ほっと一息つける時間や気分転換ができる企画を立て実行しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様が管理されています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会を通して家族の方と話をしてもらっています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その季節ごとの飾りを行っている。リビングで調理しているのが見えたり調理の香りなどが感じられる居心地の良い空間づくり	広めのリビングには休息用に2台のベッドが置かれ、TVを観たり、お喋りをしている利用者の気配を感じながらまどろんでいる方もいます。毎日、身体を動かしたり、カラオケ等を楽しんでおり、職員は、居心地良く過ごせるよう住環境に配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで過ごしていることが多くその場で仲良く話をされている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	雑誌新聞テレビを置いたり心地よく過ごしていただけるようにしている	居室にはクローゼットを備えています。ダンスや籐椅子、カレンダーや写真、ラジカセ等を持ちこんでいる部屋で、利用者は皇室関係の雑誌や事業所の新聞を読むなど、自分のペースで過ごしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所の名前を書いたりしている		